

日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業

I まぐろ類・かじき類

漁業資源課 山下 慶太郎

1 目的

本県周辺海域で漁獲されたまぐろ類及びかじき類の生物学的データを収集し、資源評価に必要な基礎的知見を蓄積する。

2 方法

平成 30 年度国際資源評価調査・情報提供委託事業計画書に基づき、以下の調査を実施した。

(1) 水揚状況調査

県内 9 市場(甲浦・椎名・室戸・加領郷・宇佐・上ノ加江・佐賀・窪津・清水)で水揚げされたまぐろ類及びかじき類の水揚状況を、漁協の水揚統計資料により集計した。

(2) 魚体測定調査

夏季に養殖用種苗として採捕されるクロマグロ幼魚の尾叉長及び体重を測定した。

3 結果

(1) 水揚状況調査

①クロマグロ

・養殖用種苗(主に 200g 前後クロマグロ)

主に養殖用種苗として夏季にクロマグロ幼魚を曳縄で採捕しており、採捕尾数及び CPUE (1 日 1 隻当たり採集尾数) の推移を図 1 に示した。2018 年の採捕尾数は 2,813 尾で、集計を始めた 2004 年以降最低であった。CPUE は 2015 年以降増加傾向にあり、2018 年の CPUE は 2011 年以降最高であった前年は下回ったものの、2011 年以降では 2 番目に高い水準であった。種苗を受入れ業者の撤退及び受け入れ尾数の減少により、CPUE の増加傾向に反して採捕尾数は急減した。

・ヨコワ(30 kg未滿クロマグロ)

ヨコワ(30 kg未滿のクロマグロ)の 8 割は曳縄によるもので、その他沿岸竿釣や定置網で漁獲される。曳縄の水揚量及び CPUE (1 日 1 隻当たり水揚量) の推移を図 2 に示した。水揚量は 2007 年をピークに 2015 年まで概ね減少傾向を示した。2016・2017 年はやや回復したものの、2018 年は再び減少した。2018 年の曳縄による水揚量は 10.2 トンで前年比 20%、平年(過去 10 年平均)比 25%であった。CPUE は 4.3 kg/隻/日で、前年比 45%、平年比 74%であった。

・クロマグロ(30 kg以上)

クロマグロ(30 kg以上)は主に定置網と沿岸延縄で漁獲される。漁業種類別では定置網が 8~9 割、沿岸延縄が 1 割程を占める。近年の水揚げを図 3 に示した。2010~2012 年及び 2013~2015 年に増加傾向を示し、2016 年以降は 2~3 トンで推移している。2018 年の水揚量は定置網が 2.5 トンで前年比 178%、2010~2017 年平均比 76%、沿岸延縄が 0.3 トンで前年比 130%、2010~2017 年平均比 73%であった。

②キハダ

・ビンタ(主に 10 kg未滿キハダ)

主に 10 kg未滿のキハダは「ビンタ」と呼ばれ、沿岸竿釣や曳縄等で漁獲される。漁業種類別では沿岸竿釣が 7~8 割、曳縄が 2~3 割を占める。

沿岸竿釣による水揚量及び CPUE の推移を図 4 に示した。水揚量は 2006~2013 年は 200 トン前後で推移したが、その後減少傾向にある。CPUE は 2006~2015 年は概ね 150~200 kg/隻/日で推移したが、2016・2017 年は減少した。2018 年の水揚量は 86.4 トンで前年比 93%、平年比 46%、CPUE は 122.6 kg/隻/日で前年比 165%、平年比 76%であった。

曳縄による水揚量及び CPUE の推移を図 5 に示した。水揚量は 2000 年代までは概ね 80~100 トンで推移していたが、近年は 60 トン前後で推移している。一方、CPUE は 2008 年までは概ね 5~10 kg/隻/日で推移したが、2009~2015 年は増加傾向を示し、2016・2017 年は減少した。2018 年の水揚量は 50.4 トンで前年比 82%、平年比 74%、CPUE は 21.0 kg/隻/日で前年比 187%、平年比 144%であった。

・キハダ（10 kg以上）

概ね10～20 kgのキハダ（一部漁協では7 kg以上）は「メジ」や「シビ」、20 kg以上は「キハダ」と呼ばれ、流し釣り等の一本釣り、沿岸延縄、沿岸竿釣り等で漁獲される。

近年の水揚げを図6に示した。2010年は400トンを超えていたが、その後は減少傾向にある。2018年の水揚量は30.3トンで前年比18%、平年比15%で、2010年以降最低の水揚量であった。

③ビンナガ

ビンナガの漁獲の9割以上は沿岸延縄によるもので、沿岸延縄の県内唯一の水揚港である甲浦におけるビンナガの水揚量及びCPUEの推移を図7に示した。水揚量とCPUEの変動はほぼ同じ傾向を示し、1997年をピークに減少傾向が続いている。2018年の沿岸延縄による水揚量は1.9トンで前年比41%、平年比14%、CPUEは45.5 kg/隻/日で、前年比57%、平年比38%であった。

④メバチ

メバチは主に沿岸延縄、曳縄、沿岸竿釣りで漁獲される。沿岸延縄で漁獲されたメバチの水揚量及びCPUEの推移を図8に示した。水揚量はビンナガと同様に、1997年をピークに減少傾向にある。CPUEは2000～2011年は10 kg/隻/日で推移したが、その後減少傾向にある。2018年の水揚量は2.8トンで前年比67%、平年比20%、CPUEは前年比94%、平年比56%であった。

⑤かじき類

水揚げされるかじき類は主に定置網と沿岸延縄で漁獲される。近年の水揚げを図9に示した。水揚量は概ね20～40トンで推移しており、漁業種類別では、定置網が2014年以降増加傾向にあるが、沿岸延縄は2014年以降減少傾向にある。2018年の全漁法合計の水揚量は18.4トンで前年比77%、2010～2017年平均比71%であった。

(2) 魚体測定調査

7～8月に2漁協からクロマグロ幼魚を合計153尾について、尾叉長及び体重を測定した。

尾叉長組成は20～22 cmにモードが見られた(図10)。尾叉長と体重の関係を見ると(図11)、尾叉長20 cmでは120g前後、25 cmでは300g前後で推移していた。

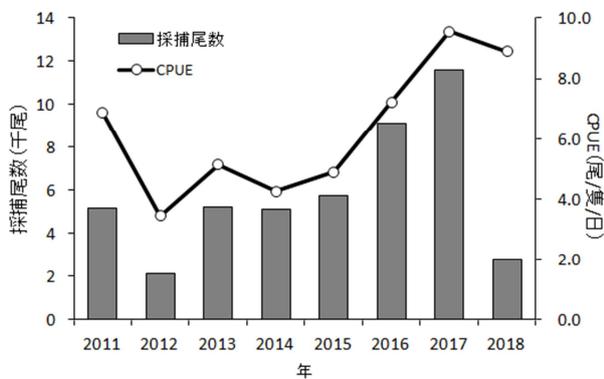


図1 養殖種苗用クロマグロ採捕尾数・CPUE

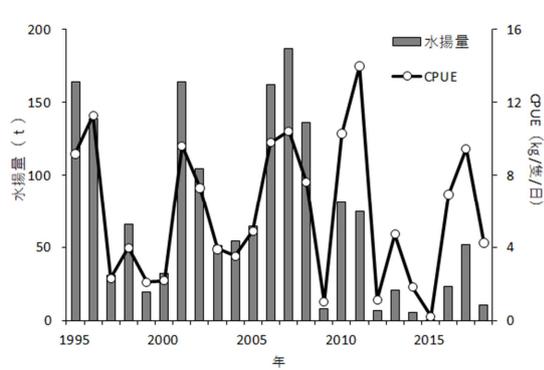


図2 曳縄によるヨコワ水揚量・CPUE

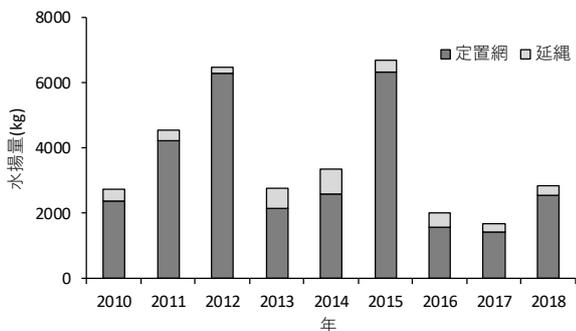


図3 クロマグロの漁業種類別水揚量

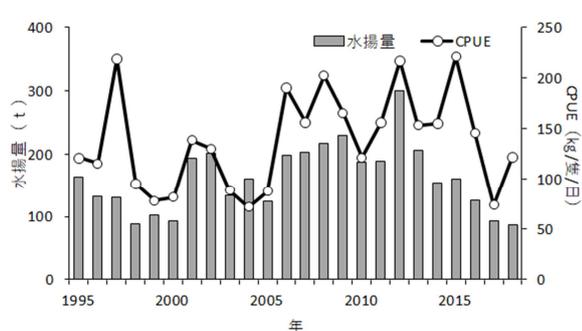


図4 沿岸竿釣りによるビンタの水揚量・CPUE

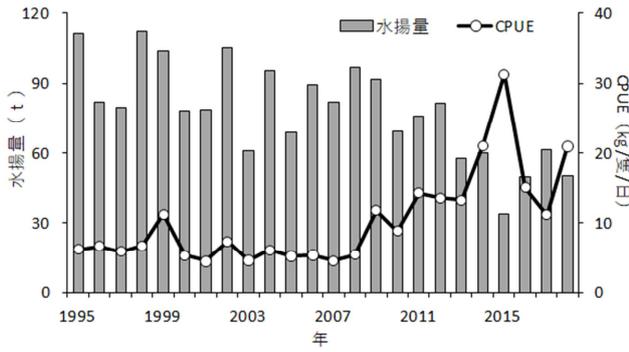


図5 曳縄によるビンタの水揚量・CPUE

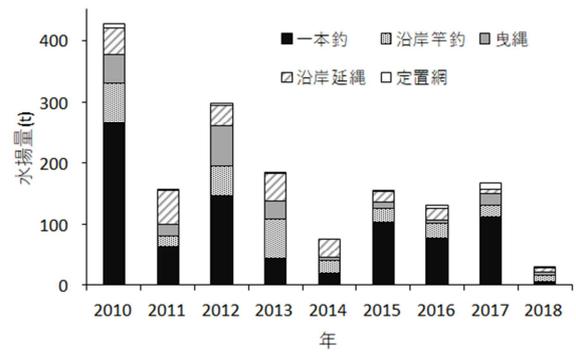


図6 キハダ (10 kg以上) の漁業種類別水揚量

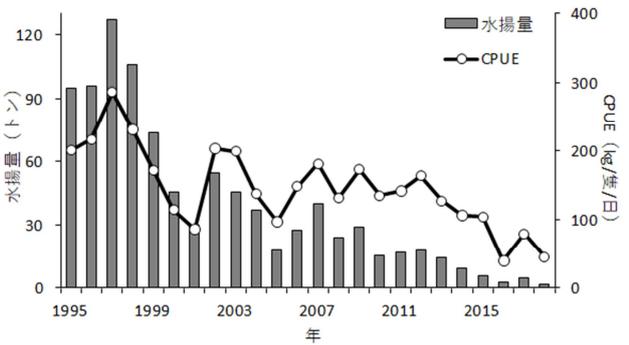


図7 沿岸延縄によるビンナガの水揚量・CPUE

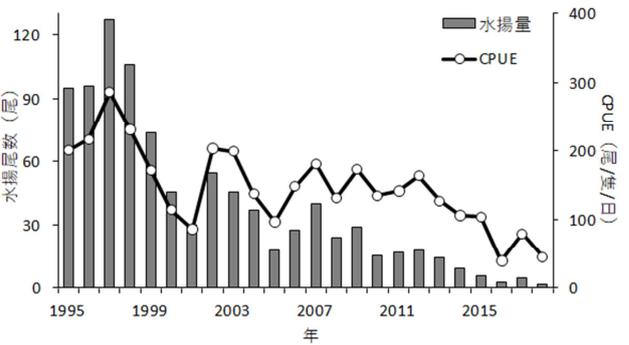


図8 沿岸延縄によるメバチの水揚量・CPUE

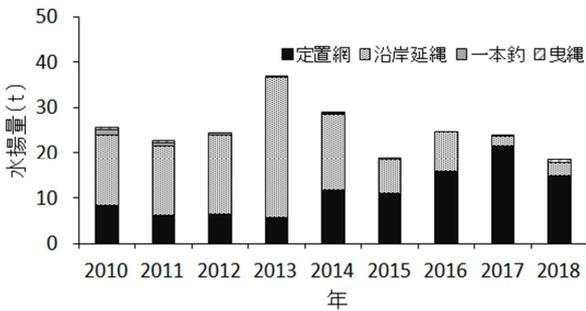


図9 かじき類の漁業種類別水揚量

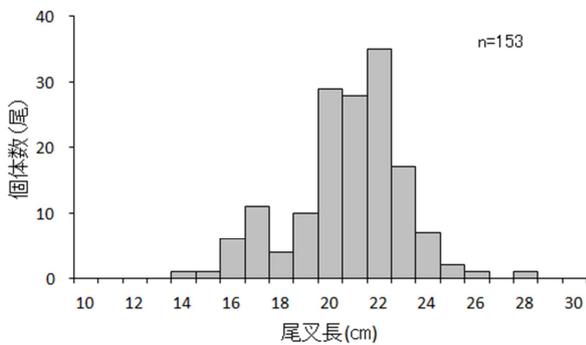


図10 養殖種苗用クロマグロの尾叉長組成

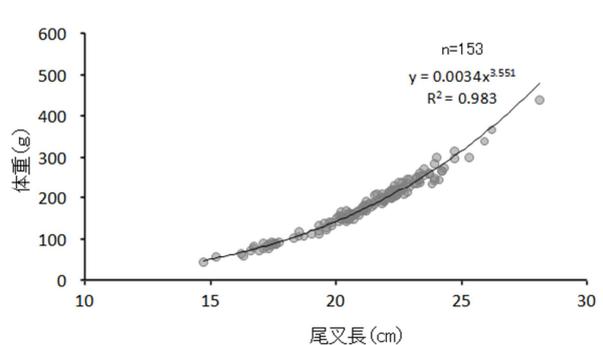


図11 養殖種苗用クロマグロの尾叉長と体重